

菓聊以儲之乞莫嫌下劣謹言

八月十五日

兵庫頭

謹上源兵衛佐殿

朝廷十五夜

〔故實拾要〕<sup>五</sup>八月十五日御獻 是名月ノ御獻也初獻二獻ハ自男居供之又供禮酒

〔後水尾院當時年中行事<sup>上</sup>八月十五日名月御さかづきつねの御所にて參るまづいも次に茄子を供すなすびをとらせまし〜て萩のはしにて穴をあけ穴のうちを三反はしをとほされて御手にもたる御さかづき參りてのち御前のをてつすせいりやうでんのひさしにかまへたる御座にて月を御覽あり彼の茄子の穴より御覽じて御願ありこれらも專世俗に流布の事也禁中にはいつの比よりはじまれることにか

〔禁中年中行事<sup>八月</sup>十五日 名月和歌御會 芋ノ獻 甘酒 伊豫殿局ヨリ調進

〔禁中近代年中行事<sup>八月</sup>十五日名月おこん 九月十三日同事 初獻さといも三計がわらけに高盛直に三方におく常の御はしをへ

二獻小きなすび三計かわらけに高盛にして三方一ツに二ツを置御はしはぎのはしなすびにはぎの御はしにて丸くあなをあけ月を御覽のよしなり  
三獻あまざけ伊豫の局よりあがる荷桶に入上ル常のあまざけをひきこしてなり御まへ江はてうしに入出ル

〔光臺一覽<sup>二</sup>〕十五夜<sup>月</sup>○八良辰とて和漢兩朝いまもたへせぬ名におふて天氣に任せ詩歌管絃堂上御近臣を被召内々之酒饌を被下上達部も御免を蒙り新月の情をのべ風雅を口に嘯きいと面しろき嘉會也

〔日本紀略<sup>一</sup>〕延喜九年閏八月十五日夜太上法皇<sup>多</sup>○字召文人於亭子院令賦月影浮秋池之詩